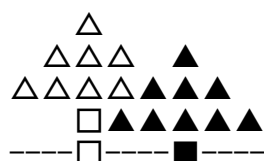


2020/10/19

林業試験場メールマガジン



『北の森の達人』

Vol. 63 第63号

□■□読者の皆様へ□■□

いつも林業試験場メールマガジン『北の森の達人』をお読みいただき、ありがとうございます。今回のメールマガジンは刊行物発行のご案内と道東支場事務所移転のお知らせです。

■「光珠内季報No.196号」、「グリーントピックスNo.61号」、令和元年度「北海道立総合研究機構林業試験場年報」を発行しました。
 当該ホームページ「刊行物」のページ
<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fri/about/kanko.htm>
 よりご覧いただきますようお願いいたします。

■刊行物ダイジェスト

光珠内季報 196号 (2020.10発行)

- 1 北海道の森林にふさわしいシカ管理を考える 1頁

エゾシカはアカシカなどに比べて低質の餌を利用でき、森林を劣化させる特徴をもつ。北海道の現状では狩猟の制限の緩和によって捕獲される頭数以上の捕獲が求められ、公的資金による捕獲が必要である。多様な問題を引き起こすエゾシカに対応するには地域に密着した市町村の役割が重要であり、森林管理者は市町村と連携して取り組んでいく必要がある。

- 2 森林溪流から流出する窒素になぜ注目するのか? 7頁

北海道空知管内の森林溪流で水質を調べたところ、トドマツ高齢人工林の小流域で硝酸態窒素濃度が高いことが明らかになり、伐採によりその濃度が上がることがわかった。上流域での森林施業の影響が下流域へどのように波及するか、窒素流出の視点で検討する必要がある。

- 3 市町村担当者のGIS活用方法によって異なる技術ニーズ
 ー空知管内市町村の実務担当者アンケートから示唆されたことー 12頁

空知管内24市町村の林業実務担当者に、森林区分の見直しに有用なツールとして何が望ましいか尋ねたところ、専門家が作成した「機能評価マップ」を希望する自治体が多かった。一方GISを活用している自治体は「ソフト」としての技術提供を希望しており、これらニーズの違いは①一般民有林内の人工林面積規模、②職員の経験年数、③GISの活用方法などに起因していることが示唆さ

れた。

グリーントピックス 61号 (2020.9発行)

- 1 組織培養で増やした少花粉シラカバ
- 2 治山ダム研究の最前線
- 3 「防風保安林の効果と更新方法」パンフレットを作成しました

////////////////////////////////////

■林業試験場からのお知らせ
令和2年10月27日(火) 道東支場事務所が移転します

昭和42年に道東試験地を設置し、昭和50年に道東支場に改称、地域のみなさまと共に歩んできた道東支場事務所は令和2年10月27日(火)から同じ新得町内にあります畜産試験場内に移転いたします。
今回の移転につきましては、事務所の移転となっており、現在の道東支場構内の試験地等につきましては現行のままとなります。
ご来訪の際には、畜産試験場総務課にて受付のうえ、指示に従ってお入りください。
また、新型コロナウイルス感染症対策のため、原則、研究室等への立ち入りはご遠慮いただいております。打合せ等は1階ロビー等の広いスペースでの対応となりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
移転後の住所は次のとおりです。移転のお知らせにつきましては、当场ホームページにも掲載しております。

- 新住所地
郵便番号：〒081-0038
住 所：上川郡新得町字新得西5線39番地1 畜産試験場内
電話番号：0156-64-5434 (直通)
※電話番号に変更はありません

////////////////////////////////////

林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

- 発行・編集
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 森林研究本部林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山
- 問い合わせ
企画調整部普及グループ
電子メール forestry-mm@hro.or.jp
- 記事の取り扱い
林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。

////////////////////